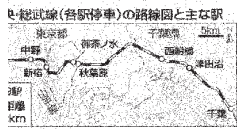


ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

# 中野区 体調不良でオーバーラン 乗務中断3年間で約40件

## 中央・総武線 運転士に広がる不安

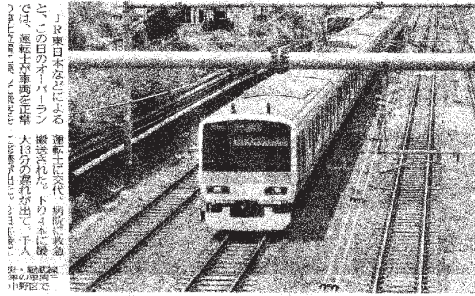


中央・総武線の高円寺駅で17日午前7時20分ごろ、中野区を走行中だった乗務員が、体調不良を訴えた。乗務員は約90分走り過ぎた後に「オーバーラン」を犯し、体調不良を訴えた30代の乗務員が乗務を交代した。実は、中央・総武線の「中野区」では、乗務員が体調不良でオーバーランした後に乗務中断するケースが、過去3年間で約40件も発生している。原因不明の乗務中断は、乗務員の間では「中電病」として不安が広がっている。

## 謎の中電病

### 乗務中断3年間で約40件

### 体調不良でオーバーラン



乗務員は乗務中に体調不良を訴え、乗務を中断した。乗務員は約90分走り過ぎた後に「オーバーラン」を犯し、体調不良を訴えた30代の乗務員が乗務を交代した。実は、中央・総武線の「中野区」では、乗務員が体調不良でオーバーランした後に乗務中断するケースが、過去3年間で約40件も発生している。原因不明の乗務中断は、乗務員の間では「中電病」として不安が広がっている。

東京新聞 2024年7月18日

「原因不明」 体調不良続発  
乗務員の体調不良によるオーバーランとその後乗務中断が続発しています。とくに中野電車区で過去3年間で約40件も発生しています。当該の運転士は20〜40代の約30人。持病などがないにも関わらず、「記憶があいまい」「意識がもうろうとした」「視界がぼやけた」と訴えています。  
なぜ中野電車区でこれだけ続発したのか、具体的な原因ははっきりしていません。会社は、オーバーランが中野電車区で多く発生していることは認めつつ、「原因は個々

の運転士で異なる」「(業務融合化やジョブローテーションなどは)中野電車区に限ったことではない」と説明しています。  
**業務融合化ただちに撤回を**  
しかし、背景には間違いなく、業務融合化やジョブローテーションなど、乗務員をないがしろにする施策があります。  
乗務員は不規則な勤務の中で、多くの乗客を乗せて鉄道の安全を守っています。それにも関わらず会社は業務融合化を進め、乗務員の仕事を「片手間」扱いしてきました。  
また、ジョブローテーションによる不当な強制配転が続けられています。「いつ自分が配転されるのか」「生活設計も立てられない」という状況が作られています。  
こうした中で、乗務員への負担はこれまで以上に大きくなっています。報道では、「疲労やストレスの蓄積に気づけなかった」という乗務員の声も紹介されています。  
事態は深刻です。体調不良や乗務中断が続発し、そのまま病院に救急搬送されたケースも発生しています。乗務員の命と健康に関わる問題であり、重大事故につながりかねない状況です。業務融合化・ジョブローテーション、乗務員への労働強化はただちに撤回されるべきです。